

Title	国内中堅製薬企業の海外市場の選択と参入戦略：トルコ医療用医薬品市場参入に関する一考察
Sub Title	
Author	樽松, 宏幸(Kurematsu, Hiroyuki) 大林, 厚臣(Obayashi, Atsuomi)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2013
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2013年度経営学 第2834号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002013-2834

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（ 2013 年度）

論文題名

国内中堅製薬企業の海外市場の選択と参入戦略

- トルコ医療用医薬品市場参入に関する一考察 -

主 査	大林 厚臣先生
副 査	中村 洋先生
副 査	岡田 正大先生
副 査	高橋 大志先生

2014年 2月 28日 提出

学籍番号	81230331	氏 名	樽松 宏幸
------	----------	-----	-------

論文要旨

所属ゼミ	大林厚臣研究会	学籍番号	81230331	氏名	樽松 宏幸
<p>国内中堅製薬企業の海外市場の選択と参入戦略</p> <p>- トルコ医療用医薬品市場への参入に関する一考察 -</p>					
<p>(内容の要旨)</p> <p>世界の医薬品市場において、今、日本市場の存在感が薄れている。人口減少、医療費の増大による後発品推進策、薬価改定などが原因だ。各社が有力な新薬候補（パイプライン）を安定的に確保し、製品ラインナップの拡充を図るために M&A を繰り返し、規模を拡大しても、縮小している市場に留まっていたら、成長率が著しい新興国市場に進出しているグローバル企業には勝てない。そこで国内中堅製薬企業は海外へ経営資源をシフトして売上を増やしていくことが、重要な成長要因となってくる。国内中堅製薬企業の一つである筆者が所属する社の海外戦略は OTC 薬品が中心であり、利益率の高い医療用医薬品の海外展開は極めて限定的である。本論文は、海外における医療用医薬品市場を選択するうえで指標を提唱し、どのような準備を行って、どのように進出していくのか、今後の社内における基準を作成することを目的とする</p> <p>本論文では参入国を絞るために、「医療用医薬品市場の魅力度」「経済的魅力度」「医療への取り組みに関する魅力度」「マーケットアクセスの魅力度」「利益魅力度」を示す 10 個の項目でスコア分析をした。その結果、スコア上位であったトルコを取り上げた。トルコは国別の医薬品市場としては世界 17 位である。年間平均医療費伸び率が近年高く推移しており、医療環境も強化されている。更に公的医療保険加入者割合は 98%であり、国民皆保険を導入している日本に似ており、患者が医療機関にアクセスしやすい環境が整っている。</p> <p>トルコが建国 100 周年を迎える 2023 年までの期間を判断基準とする。市場の成長率を 1 人あたり GDP 増加率に医療費所得弾力性を掛けた値に人口増加率を加えて算出したシナリオと、既に報告されている 2 つの成長率の計 3 つのシナリオを用い、更に 3 種類の獲得シェアを提示した。収益分析には、将来の正味キャッシュフローを NPV に直す DCF 法を用いた。割引率は 3 種類用意した。参入する際に臨床試験が必要かどうかを加味し、合計 54 のシナリオを作成した。シナリオ分析の結論としては、54 のシナリオの NPV において、28 のシナリオがプラスであった。NPV の平均値は 6.5mill \$、標準偏差は 12.8 mill \$、最大値は 32.4 mill \$、最小値は -9.2 mill \$ であった。感度分析をトルネードチャートで示すことにより、参入を検討する際には期間とコストを考えるうえで臨床試験の実施有無がその計画を大きく左右することが分かった。</p>					